

## 8月から新しい看護師さんが着任しました!

8月1日から4ヶ月間、朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師のひるたなごさ蛭田渚さんです。蛭田さんは幼稚園の頃から看護師になりたいと思い、会津若松市内の仁愛高等学校に入学し、そして中央病院の看護師となりました。理想は、患者の立場になり笑顔で優しく対応できる看護師だそうで、理想に近づけるよう日々励んでいます。只見町では訪問看護を体験し、患者を身近に感じることができ、訪問看護の重要性を感じたそうです。「外来にいるので声をかけてください」と話す蛭田さんをどうぞよろしく願いいたします。



蛭田 渚さん  
(出身/石川郡浅川町)

## 広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 森 冬人



### 「医学生実習のご協力への謝辞」

私は朝日診療所で働いて4年目になります。かつて只見へ来た医学生たちが日本の各地で医師として仕事をしている事に時の流れを感じます。只見町には医師・看護師・保健師を目指す学生が毎年実習に来ています。今年も福島医大医学部6年生が5名、1人2週間の実習にきました。只見町での実習は昔から人気があります。2011年の震災・水害が起きた年も5名の医学生が来ました。私もその1人でした。当時から只見町の実習がとても勉強になるとの評判でした。なぜ評判が良いのか。主な理由は①田舎で働く医師の実情がわかる、②地域で働く様々な医療福祉職の仕事を学べる、③訪問診療・訪問看護を見学して患者さんの日常生活を学べる、④ホームステイ先の大家さんが優しいなどです。特に1つ目。田舎で働く医師の仕事はきつい・つらい・面倒と悪い印象を多くの医学生がなんとなく持っています。最近の学生は「年配の先生がやっとなんて頑張っている

持している診療所だと思ったら、若い先生ばかりでびっくりした」そうです。実習を通して、へき地で働くことへの偏見が無くなる事が多いです。学生時代、私もやりがいを持って働く只見の先生方を見て、良い印象を持ちました。当時の訪問看護師さんなどお世話になった方もよく記憶しています。

只見町の実習は大学病院と違い、当時の私にとって「宝物のような特別な経験」でした。学生時代に只見に来た医師が様々な所で働いています。ある医師は若松市内の病院に勤務し只見の患者さんも一生懸命診察しています。別の医師は、へき地医療に貢献したいと言って、出身県のへき地で仕事をしています。今後も多くの学生がよく学べるよう、私自身も手本になるような医師として頑張りたいです。

学生の見学にご協力頂いている町民の皆さま、医療福祉関係者、そして学生を温かく迎えてくれるホームステイ先の皆さまに改めて感謝いたします。

## 地域おこし協力隊として 只見町観光振興協力隊

vol.46

やましな まい  
山科 麻伊



### 「只見町の見えない宝」

今、私は「インバウンド(訪日外国人)観光客受入環境整備」を実施しています。まだまだ只見町には多くの外国人が来ているとは言えませんが、東京オリンピック、JR只見線開通などの多くのチャンスが近年中に押し寄せることを考えると、受入整備とマーケティングを行うことは、インバウンド誘客推進の上でもかなり重要な基礎になると思います。その関係でよく、町内の観光関係者の方々から「外国人でも日本人でもお客様はお客様」という話をよく耳にします。お客様には精いっぱいのおもてな

しをしたい。それは誰であろうが関係ない。「楽しかった。只見にまた来たい」と言ってもらえるように、真心を込めておもてなしするんだ!という心意気がかっこいいなと感動しました。現代は都市部を中心に個人主義が蔓延する時代ですが、只見町には「時代がどうあろうと、誠意や真心というものが大事」というような考えを持っている方が多いと感じます。時代に合わせて変わっていく部分もありますが、その心意気は根本にあるべき大事なことだと思います。私も観光振興協力隊として真心をもって、残り半年の任期を町のために頑張りたいと思っています。